

# 厳冬期避難所展開・宿泊演習 2026 実施要領

日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター  
センター長 根本 昌宏

## 1. 開催趣旨

日本赤十字北海道看護大学は、寒冷期に災害が生じた際の対応策を実践的に明らかにすることを目的に研究を推進しています。冬期の停電を伴う災害は既存の暖房機器を使用不能とし、避難所として指定されている場所においても低温により命を落とす恐れがあります。2025年1月に実施した12回目の厳冬期災害演習2025は、感染症対策を施した中でマイナス19℃の環境における様々な検証を実施し、多くの成果とともに課題を見出しました。

2024年1月1日に発災した令和6年能登半島地震は厳冬期の避難所対策の難しさを浮き彫りにし、本年7月に発生したカムチャッカ半島沖地震による津波は暑熱対応の課題が表されました。厳冬期避難所展開・宿泊演習2026（通称：厳冬期災害演習2026）は、下記に掲げる項目について2日間にわたり検証を行います。すべてのプログラム（演習）を修了した参加者に修了証を交付いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 2. 開催要領

1) 日時：2026年1月17日（土）13時00分～1月18日（日）12時00分

2) 場所：日本赤十字北海道看護大学 講堂、体育館、食堂、屋外

（北見市曙町664番地1 電話0157-66-3311）

3) 参加者

①対象：災害保健・医療・福祉関係者、赤十字関係者、防災行政担当者、大学関係者、指定した資機材関係業者、その他本学が特に必要と認めた者のみとします。一般の方の参加はできません。すべてのプログラムを修了された参加者に厳冬期災害演習2026修了証明書を交付いたします。

②定員：要事前登録100名（定員となり次第締め切り）

③参加費：1,000円（食材費、消耗品費ならびに保険代として）当日受付支払  
報道・取材の方は無料ですが食事が必要な場合は有料です

④事前登録期限：2025年12月26日（定員になり次第締め切らせて頂きます）

本年度は避難所環境を整えるため定員を削減しております。ご注意ください。

4) 主催：日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター

共催：日本赤十字社北海道支部、日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

後援：国土交通省北海道開発局網走開発建設部、北海道オホーツク総合振興局、北見市  
避難所・避難生活学会

5) 厳冬期災害演習2026の検証内容

①スチールベッドの導入による展開迅速化の検証

- ②テント on the ベッドの展開によるプライバシー空間確保と温熱化
- ③PHEV を使用したダクトヒーター暖房による温熱ならびに換気性能評価
- ④蓄電池駆動レンジの運用による適温食と配慮食の提供検証
- ⑤屋外サウナテント・濡れない足湯を活用した温熱機材の検証
- ⑥避難所環境指標の見える化
- ⑦その他新規検証

6) 本演習の公表

本演習は成果を広く防災関係者ならびに寒冷地域に暮らす市民に周知するため、新聞、テレビ等すべてのメディアに公開・公表します。

7) 問い合わせ先

本演習に関するお問い合わせ先  
日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター  
電話 0157 (66) 3311 FAX 0157 (61) 3125  
メール [bousai@rchokkaido-cn.ac.jp](mailto:bousai@rchokkaido-cn.ac.jp)